

# ◆実践問題42◆

今は昔、朱雀院の女御と申すは、小野宮の太政

大臣の御娘なり。その女御はかなく失せ給ひにけ

り。しかるに、その女御のもとにさぶらひける女

房ありけり。名をば助とぞ言ひける。かたち有様

よりはじめて、心ばへをかしかりければ、女御

れをむつまじき者にして、あはれに思したりけれ

ば、女房もうつくしく思ひ通はして過ぎけるほど

に、常陸守が妻になりてその国に下りにけり。心

苦しく思ひけれども、あながちにいざなひければ、

国に下りても女御を恋ひ奉りけるに、かの女御に

御覽ぜさせむとて、いつくしき貝どもを拾ひて、

箱一具に入れて持て上りたりけるに、女御失せ給

1回目

2回目

3回目

4回目

5回目

ひにけりと聞きて、泣き悲しむといへばおろかな

りや。しかれどもかひなくして、その貝一箱を、

「これ御誦経にせさせ給へ」とて、大き大臣に奉

りたりけるに、貝の中に、助かくなむ書き入れた

りける。

拾ひおきし君もなぎさのうつせ貝

今はいづれの浦に寄らまし